

# 身 辺 雑 話

株式会社 紀伊國屋書店 国際情報部

三 浦 勲



某 月 2 日

先月に引続いての中途採用者の面接。これまでの応募者はコンピュータ関係会社就職の社歴3~5年といったところが多かった。

彼等の転職の動機で最も多いのは、単調な仕事を猛烈な残業でやらされ、自分を失わないかけ、このままでよいのかと疑問を懐く、というのである。

当社がこれまで10年間行ってきた、文献情報検索サービスは、ここ2~3年で漸く脚光を浴びようになり、産業としても、学問としてもまだ新しい分野である。この仕事をする人のバックグラウンドは、早い話が何でもよいが、情報検索は、研究者の情報探索を助け、研究の重複や二重投資を避けるために発達してきたという歴史から科学技術系のシステムが多いため、勢い理工系出身者(できれば大学院卒者の)を要求することになる。

応募者の全てが、説明を受けて初めて情報検索の内容を知るとというのが実状で、多くがそんな仕事もあったのかという感想をもつようである。

さて、結果や如何。書店というイメージは、一旦は渴いた心を癒やしてくれると思いきませる(?)ものの結局理工系出身者の入社の対象としては馴染めないのか、内定まで進んでも、最後の段階で入社してもらえないケースが殆どとなってしまう。

こういうことが、何度か重なると口説が下手なのかと、些か自信喪失に陥る。

某 月 4 日

通産省の情報振課に、T社取締役のW氏と、同省所管の外郭団体が、T社が行っているオンライン情報サービスと同一サービスを開始する計画があるとのことで、同じ問題を抱える者として陳情に赴く。

揺籃期にある民間のデータベースサービス業の発展の

芽を摘むことのないよう善処したいとの言葉。

某 月 11 日

米国P社よりL女史を招いて、同社が製作する米国特許データベースのオンライン情報サービスの勉強会を部内で行う。デュボン社で5年ほど特許情報検索の仕事をした後、同社に10年在職している由で優秀。

ここ1年で欧米のメジャーなデータベース製作元から6名ほど講師を呼んでユーザーセミナーを実施してきたが、全員が30代の女性であった。

某 月 12 日

データベース・サービス業連絡懇話会の定例総会。鉄鋼連盟の情報システム部長N氏が、産業界団体のデータベースの整備とサービスの事例として、鉄鋼情報システムの説明を行う。

現在データベース・サービスの約款作りが小委員会で行われており、また今日は業界として、データベース・サービスの意義と効果の浸透をはかるために、社会PR用のカタログを作ろうとの提案あり。

某 月 13 日

午後、情報産業新聞社N記者の取材を受ける。代表的な情報産業会社の紹介を紙面で行っている由で、当部の取材となったもの。

某 月 16 日

国際科学振興財団が主宰する分子設計研究会の月例会が当部のセミナー室で開催される。筑波大学のF教授がリーダーで民間化学会社25社がメンバー。

分子設計をコンピュータで行うことを主テーマとしており、当社が代理店となっているChemical Information System (CIS)という未知化合物同定数値オンライン情報検索システムの紹介をする。メンバーの問題意識は高かった。

某 月 17 日

オランダの世界的出版社E社の販売部長S氏と昼食。いまや活字情報は、サチュレートし、今後とも電子出版物などの発展で、出版業界は大きな成長を期待できないのではないか、との質問を発したところ、泰然自若、やり方の問題で、活字出版はそれなりに成長すると、言い放つ。

午後、日本オンライン情報検索ユーザ会の例会に出席。KDDのT氏、JICSTのN氏よりヨーロッパのオンラインネットワークと情報サービスの話を聞く。米国のオンライン情報検索サービスが国防との絡みあいで発展したのに対し、ヨーロッパのそれは、産業立国の理念として情報が重視された結果成立したとのN氏の話は興味深かった。

夕刻、経団連会館でJOINT(日本の経済・産業誌の論文データベース)のオンライン情報サービス開始祝賀パーティ。通産省官房情報管理室長W氏、世界情報サービス常任理事S氏、東大I助教授などと久々に対面。

某 月 20 日

日本工業新聞社H記者が、担当交替挨拶を兼ねて、当社が計画しているオンライン情報検索ネットワーク(KINOCOSMONETと称す)と、DIALOGなどのサービスの利用状況について取材のため来訪。

ほんの2年前までは、各社ともデータベース・サービス業の専任記者がいなかったが、いまでは一般紙でも担当記者が取材に当るようになった。

某 月 25 日

筑波大学学術情報処理研修生への講義。当社が行っている各種情報検索システムの話が中心であったが、この10年の苦労話も出てしまう。

夜、京王プラザホテルで、図書館情報大学F教授と来月上旬訪欧予定の「組織内外のネットワークシステムの形成と利用に関する調査団」の訪問先について打合わせ。

某 月 27 日

日本油化学協会東海支部主催の「油化学におけるコンピュータ」講習会で講義のため名古屋に出張。「情報検索とコンピュータ」というのが与えられたテーマ。当社が取扱っているChemical Information Systemで、ご指導いただいている豊橋技術科学大学のS教授も「有機化合物の構造解析におけるコンピュータ利用の現状と将来」という演題で講演される。

某 月 1 日

2ヶ月前にサービス開始を予定していた専用回線サービスKINOCOSMONETが漸く開通。

ここ1週間日本から派遣した技術者を混じえて、連日のように米国とテレックスおよび電話のやりとり。

この2ヶ月間、ユーザの期待を裏切り続けてきたわけで針のむしろに座らされていたようなものであったが、遅延の理由が日本の常識では、考えられないことばかりで、腹立しさが先にたち、素直に開通を喜ぶ気持は失せてしまっていた。

新聞報道によれば、KDDのICAS(国際コンピュータ・アクセスサービス)は、昭和57年春には、サービス地域がヨーロッパへと拡充される由。日本のデータベース・サービスは欧米に比べ5~10年後れていると言われているが、いま頃、通信回線のサービス範囲がヨーロッパに拡大されるという一事を以ってしても、それは事実であろう。

次週は、ヨーロッパの地で、彼我の差を篤と実見することとした。